

2-1 ケンブリッジ大の教育

■ 内容理解のポイント ■

数学者でもあり、哲学者でもあるラッセルは、名門ケンブリッジ大に通いました。そこでの教育はどうであったと述べられているのでしょうか。

■ 構造・読解のポイント ■

1. 第④文の下線部 *intellectual honesty* とはどのような意味でしょうか。
2. 第⑥文の下線部で *resenting it* の *it* はどこを指すでしょうか。また *resenting* の *ing* 形の文法上の働きは何でしょうか。さらに *this feat* 「こうした偉業」とは具体的にはどういうことでしょうか。

① Cambridge was important in my life through the fact that it gave me friends, and experience of intellectual discussion, but it was not important through the actual academic instruction. ② Of the mathematical teaching I have already spoken. ③ Most of what I learned in philosophy has come to seem to me erroneous, and I spent many subsequent years gradually unlearning the habits of thought which I had acquired. ④ The one habit of thought of real value that I acquired there was *intellectual honesty*. ⑤ This virtue certainly existed not only among my friends, but among my teachers. ⑥ I cannot remember any instance of a teacher *resenting it* when one of his pupils showed him to be in error, though I can remember quite a number of occasions on which pupils succeeded in performing *this feat*. ⑦ Once during a lecture on hydrostatics, one of the young men interrupted to say: 'Have you forgotten the centrifugal forces on the lid?' a lecturer gasped, and then said: 'I have been doing this example that way for twenty years, but you are right.' ⑧ It was a blow to me during the War to find that, even at Cambridge, *intellectual honesty* had its limitations. ⑨ Until then,

wherever I lived, I felt that Cambridge was the only place on earth that I could regard as home.

[Vol.1: 1872-1914: Cambridge]

【語注】 ① *intellectual* 知的な *discussion* 議論 *academic* 学問の *instruction* 指導
 ③ *erroneous* 誤った *subsequent* その後の *gradually* 段々と *unlearn* (身につけたこと) を忘れる *acquire* ~を獲得する ④ *of ~ value* ~の価値がある ⑤ *virtue* 美德、長所 *exist* 存在する ⑥ *instance* 実例 *resent* ~に憤慨する *pupil* 生徒、学生 *in error* 誤って *occasion* 機会 *succeed in* ~に成功する *perform* ~を行う、成し遂げる *feat* 偉業
 ⑦ *hydrostatics* 流体静力学 *interrupt* (会話) に割りこむ *centrifugal forces* 遠心力 *lid* ふた *gasp* 驚きなどではっと息を飲む ⑧ *blow* (精神的な) 打撃 *limitation* 限界 ⑨ *regard A as B* AをBと見なす

■ 味読のポイント ■

今はどうか知りませんが、某有名私立大では、かつて「学生一流、施設二流、教授三流」などと揶揄されていたことがありました。ラッセルが通っていた当時は19世紀ですが、名門ケンブリッジといえども、少なくともラッセルにとっては数学にしる、哲学にしる、教師自体から何かを得たということはほとんどなかったようです。だからといって遊んでいたわけではなく、ケンブリッジには「使徒会」(The Apostles) という議論を戦わせる場があり、多くの知識人を輩出しており、彼もそこに参加していました。優秀な学生同士で知的議論を戦わせることが、その後の数学者のみならず哲学者としての彼を育てていったようです。

■ 構文研究 ■

① Cambridge was important in my life through the fact { that it (= Cambridge) gave me friends, and experience of intellectual discussion }, **but** it (= Cambridge) was not important through the actual academic instruction.

「ケンブリッジ大学が私の人生にとって重要であったのは、友人を得られ、知的議論の経験を得ることができたという事実のおかげであったが、実際の学術的指導という面では重要ではなかった」

第①文で、ケンブリッジ大学が筆者にとってどういう点で重要であったかが述べられています。

② { **Of** the mathematical teaching } I have already **spoken**.

「数学の授業についてはすでに語った通りである」

speak of「～について語る」の of 以下 (Of the mathematical teaching) の部分が前に置かれていることから、この部分がすでに述べられた旧情報 (p.26) であることがわかります。(この一節の前に、ケンブリッジ大の教師は特に微積分について、彼が知りたかった疑問に答えることができなかつたと書かれています。当時の英国は大陸に比べて数学の研究が遅れていたとも述べています)

③ Most of what I learned in philosophy has come to seem to me erroneous, and I spent many subsequent years gradually unlearning the habits of thought [which I had acquired].

「哲学について学んだことの大部分は私には誤りと思われるようになり、私はその後何年も、そこで身につけた思考習慣を徐々に忘れ去ることに費やしたのである」

ラッセルは3年までは数学、4年次には哲学を専攻していたのですが、哲学についても、大学での教育がほとんど無意味であったことを述べています。

spend + O + doing は「O を～して過ごす」という用法です。

④ The one habit of thought of real value [that I acquired there] was intellectual honesty.

「私がケンブリッジ大で身につけた真に価値のある唯一の思考習慣は、知的正直さであった」

この intellectual honesty 「知的正直さ」がどういうことかは以後の文で述べられる展開になります。there とはもちろん at Cambridge のことです。

⑤ **This virtue** certainly exists **not only** among my friends, **but** among my teachers.

「この美德は、友人たちの間だけでなく、教師の間にも確かに存在していた」

This virtue とは第④文の intellectual honesty を指します。具体的にどういふことかは次の文で明らかになります。

not only ~ but (also) ... 「～だけでなく...も」の構文となっています。

⑥ I cannot remember any instance of a teacher **resenting it** when one of his pupils showed him (= the teacher) to be in error, though I can remember quite a number of occasions [on which pupils succeeded in performing **this feat**].

「学生の一人が教師の誤りを指摘した際に、その教師がそのことに憤慨した例は一つとして私の記憶にはない。もっとも、学生がこのような偉業をなしとげること成功した数多くの機会は記憶に残っているが」

resenting の ing 形は、後ろから前の a teacher を修飾する分詞ではありません。(そうすると、「憤慨する教師の実例」(?) という意味になってしまいます) ここでの ing 形は分詞ではなく動名詞で、a teacher は意味上の主語に相当します。(意味は「教師が憤慨した実例」となります)

名詞 + doing の結合が、(1) doing が分詞で前の名詞を修飾する：「～する(名詞)」なのか、(2) doing が動名詞で名詞がその意味上の主語：「(名詞) が～する(こと)」なのかは意味で区別することになります。形からは判別はできません。

[例] There is a real danger of tigers **becoming extinct** within the next 20 years.

「20年以内に絶滅する虎の危険性がある」(?)

⇒ 「20年以内に虎が絶滅する危険性がある」(○) ⇨ (2) の用法

resenting it の it は後続の when 節の内容を受けます。it が後続の when 節や if 節などの副詞節の内容を受けることはよくあります。

[例] I couldn't stand **it** if my cat died.

「うちの猫が死んだらとても耐えられないだろう」

occasions on which ... は on ~ occasions 「～の時[機会]に」が元になっています。

すでにおわかりと思いますが、第④文の intellectual honesty とは、ケンブリッジの教師が学生に誤りを指摘された場合には必ず、学生にキレたりせずに正直に誤りを認めたということを指しています。

this feat とは教師の誤りを学生が訂正することを指しています。though 以下の「学生が教師の誤りを訂正することは何度もあった」ということは、それだけ学生が教師以上に優秀であった、あるいは当時のケンブリッジ大の教師の質が